

令和 8 年度

学業特待生選抜 S 日程

世界史

出題意図

I	<p>12 世紀を「世界的な交流拡大の時代」として捉え、経済(貨幣経済・交易)、政治(国家・王朝)、文化(大学・宗教・言語)が相互に関連して発展したことを、ユーラシア規模で理解できているかを問うている。各地域(西ヨーロッパ、イスラーム世界、インド、東南アジア、インド洋)についての基本事項を押さえているかを確認し、単独の地域史ではなく、「交流」を軸に把握しているか、さらに 12 世紀に複数地域で起きた現象を横断的に理解しているかを測る問題としている。</p>
II	<p>17 世紀半ばから 19 世紀末にいたる清朝の歴史的展開についての基本的理解を問うものである。海禁政策の実施と解除、広州一港制限という通商管理体制、アヘン戦争・南京条約の内容、太平天国の乱と漢人官僚層の台頭、洋務運動による近代化の試みを順に問うことで、清朝の統治体制が国内外の圧力によって変容してゆく過程を多面的に理解しているかを測ることを意図した。あわせて、各時期の具体的な人物・事件・条約に関する正確な知識も確認している。</p>
III	<p>経済学部・経営学部・総合政策学部での学びに共通して必要な基本的知識として、高校の教科書に頻出する経済学者に焦点を当て、彼らの主義・主張およびそれがなされた時代的背景(社会・経済・政治状況)を問うものである。</p> <p>特に、本試験が学業特待生の選抜試験であるため、単に世界史用語の知識を問う設問だけでなく、その人物の主張の時代的意義を考えさせる設問など、やや難しい問題も出題した。</p>